

摩周湖の環境保全と

地域の活性化を目指して…

町では平成17年度より新たに、摩周湖をより良い環境で次世代につなぐための方策を検討しています。そこで去る10月30日、「第1回摩周湖町民懇談会」を川湯ふるさと館と弟子屈小学校体育館の2カ所で開催しました。懇談会では、これまで町が取り組んできた経緯と現在の状況を説明した後、参加した約200人の町民のみなさんから取り組みに対する意見や質問などが積極的に出されていました。

これまでの経過と町の考え方

摩周湖の環境保全対策につきましては、町民の皆様も、新聞やテレビ、町の広報紙として個別説明会などでご承知の方も多いことと思います。

近年、摩周湖の透明度の悪化や展望台周辺の木々の立ち枯れなど、特に湖周辺の環境の変化が心配されております。昨年より、役場庁舎内に摩周湖環境保全プロジェクトチームを立ち上げ、また、町議会におきましても摩周湖環境対策調査特別委員会を設置していただき、全国屈指の知名度を誇り本町観光の礎を築き上げた摩周湖の環境保全と合わせて、地域社会の活性化を図ろうという取り組みでございます。

町では、摩周湖周辺の大気汚染調査、車両及び観光客の入り込み調査を昨年より実施しており、本年度は新たに酸性霧の採取装置を設置し年間20万台近く訪れる車両から出される排気ガスが環境に及ぼす影響を調査しております。もちろん、摩周湖の変化が車の排気ガスだけの問題とは考えておりませんが、私たち町民に出来る小さな事柄に目を向け、近年、世界中で話題になっております地球温暖化問題など考えたいえ、自然の大切さを発信していきたいと思っております。

賛同意見

環境保全の対策について

- ・環境保全対策については否定する何ものもない、進めるべき。
- ・同対策は子供たちへの環境教育や地元発展にもつながると思う。
- ・基本的に町の考え方には賛成。
- ・乗り入れ規制はぜひ実施してもらいたい、町民一人ひとりの保全に対する意識が足りない。
- ・規制は業者としては大きな痛手となるが環境問題については企業として参加していきたい。
- ・1960年代に既に環境問題が叫ばれているのに遅すぎる、早く取り組んでほしい。
- ・行政が保全の取り組みを始めたことは評価したい。
- ・摩周湖はどこにも引けを取らない資源、財産であり後世に引き継がなければならない。
- ・役場の政策を応援したい気持ちである。
- ・自然環境保全のために乗り入れを規制することはやむを得ない。
- ・摩周湖の保全はいいこと、経済状況が悪いので町の活性化と合わせて総合的に進めるべき。
- ・環境保全の取り組みで子供たちがゴミ拾いをしていたが教育的に良いことと思う、保全には賛成。

このプロジェクトは、色々な要因で環境破壊が進む今日において、地球温暖化の大きな原因とされる汚染物質等を調べるため、国連環境計画や地球環境監視システムが進める世界でも重要な観測地点となっている摩周湖を、地元に住んでいる私たちが率先して守っていきたくて考えております。現在進めております各種調査につきましては、北海道環境科学センターで詳細な分析を行っておりますが、昨年行いました調査結果では、弟子屈市街地より第1展望台では窒素酸化物の値が2倍を超える時があることも分かっています。

本年度からは、国土交通省北海道運輸局の支援を頂き、2ヶ年で国費1千万円を投じて調査検討もスタートしたところであります。

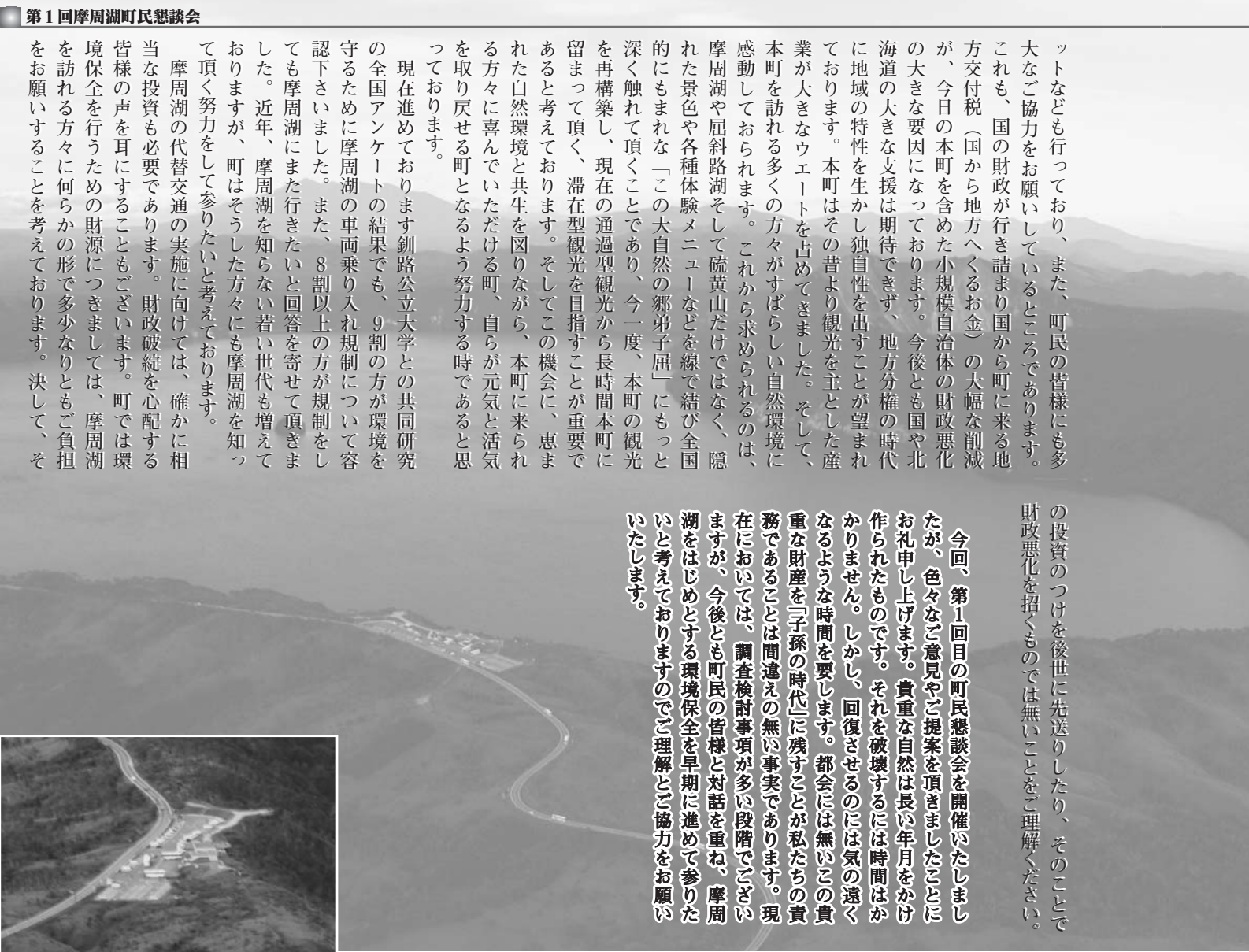
一方、近年の地方財政は大変厳しい状況にあることはご承知のことと思います。町もこの厳しい時代を乗り切るために第5次にわたる行財政改革を断行しながら、事務事業の見直し、人件費のカットなども行っており、また、町民の皆様にも多大なご協力をお願いしているところであります。

今回、第1回目の町民懇談会を開催いたしました。色々なご意見やご提案を頂きましたことにお礼申し上げます。貴重な自然は長い年月をかけて作られたものです。それを破壊するには時間はかかりません。しかし、回復させるには気の遠くなるような時間を要します。都会には無いこの貴重な財産を「子孫の時代」に残すことが私たちの責務であることは間違えの無い事実であります。現在においては、調査検討事項が多い段階でございますが、今後とも町民の皆様と対話を重ね、摩周湖をはじめとする環境保全を早期に進めて参りたいと考えておりますのでご理解とご協力をお願いいたします。

ットなども行っており、また、町民の皆様にも多大なご協力をお願いしているところであります。これも、国の財政が行き詰まり国から町に来る地方交付税（国から地方へくるお金）の大幅な削減が、今日の本町を含めた小規模自治体の財政悪化の大きな要因になっております。今後とも国や北海道の大きな支援は期待できず、地方分権の時代に地域の特性を生かし独自性を出すことが望まれております。本町はその昔より観光を主とした産業が大きなウエートを占めてきました。そして、本町を訪れる多くの方々から求められるのは、感動しておられます。これから求められるのは、摩周湖や屈斜路湖そして硫黄山だけではなく、隠れた景色や各種体験メニューなどを線で結び全国的にもまれな「この大自然の郷弟子屈」にもっと深く触れて頂くことであり、今一度、本町の観光を再構築し、現在の通過型観光から長時間本町に留まって頂く、滞在型観光を目指すことが重要であると考えております。そしてこの機会に、恵まれた自然環境と共生を図りながら、本町に來られる方々に喜んでいただける町、自らが元氣と活氣を取り戻せる町となるよう努力する時であると思っております。

現在進めております釧路公立大学との共同研究の全国アンケートの結果でも、9割の方が環境を守るために摩周湖の車両乗り入れ規制について容認下さいました。また、8割以上の方が規制をしても摩周湖にまた行きたいと回答を寄せて頂きました。近年、摩周湖を知らない若い世代も増えておりますが、町はそうした方々にも摩周湖を知って頂く努力をして参りたいと考えております。

摩周湖の代替交通の実施に向けては、確かに相応な投資も必要であります。財政破綻を心配する皆様方の声を耳にすることもございます。町では環境保全を行うための財源につきましても、摩周湖を訪れる方々に何らかの形で多少なりともご負担をお願いすることを考えております。決して、そ



- ・きれいなのが当たり前という考えは捨てるべき、子供たちに残してあげたい。
- ・保全には賛成だが、経済がどうなっていくかというシミュレーションは必要。
- ・代替交通には賛成する、ハイブリッドカーなら一般車両でも許可するとの話もあるが、来訪車両による自然動物への影響を知っているのか。キツネが観光客に餌付けされ結果来訪車両に轢かれて死んでいる現状で、車両の対策ができていないから入ってよいという問題ではない。そこに入るものが既に環境プレッシャーになっていることを理解すべき。観光客のポイ捨てもそうである。
- ・環境保全の活動を行うことにより人間自体も教育される、検討するプロセスも大事であり実施すべき。
- ・摩周湖は国の宝である、人数規制も検討してはどうか。



提案・意見・摩周湖に対する想い

- ・代替交通はハイブリッドバスが良いのでは、ロープウェイやモノレールは柱が立ってしまうので自然や景観に影響がある。
- ・交通規制は通年実施すべき。
- ・町民アンケートは実施しないほうがよい、バックデータの裏づけなしに主観による多数決では本当の環境保全は難しい。
- ・ロープウェイであれば行くかもしれないが代替バスではお金を払ってまで行く魅力がないのでは。
- ・排気ガスだけを問題にするのではなく、農業や家畜のふん尿など総合的に判断してほしい。
- ・代替バスなら来訪者が乗りたくなくなるようなものにならないとダメなのでは。
- ・バイオエタノールの利用など地元で収穫できるものが使われるような仕組みの検討も必要。
- ・このような懇談会はもっと早く実施すべき。
- ・摩周湖だけではなく、川湯や屈斜路、弟子屈市街のルートなどそれぞれ提案したほうがよい。
- ・10年先20年先の長期的施策があつてほしい、財源と支出の試算等も必要。
- ・摩周湖を取り囲む自治体が一緒に取り組むべき。
- ・摩周湖の湖水汚染の影響は鹿の食害が大きい。摩周湖一帯に鹿の進入防止柵が必要。
- ・もっと具体的な提案が無いと判断できない。
- ・補助金をもらって調査するのもいいが実際にお客さんが来る様な施策を取ってもらいたい。
- ・夜の摩周湖の活用を考えてみてはどうか。
- ・摩周湖の自然を守るのと地域活性は別に考えたほうが良いのではないか。
- ・観光は切り離せないので新駐車場でお客さんにきちんとお金を使ってもらえる考えが重要。
- ・ロープウェイであれば支柱を立てるので森林伐採につながるので、現道を利用する方法を考えるべき。
- ・下刈りや笹刈りを体験メニューにできないか。
- ・摩周湖に来訪する人たちに環境に対する配慮は感じられない、タバコのポイ捨ても多い。
- ・町民が気軽にふれあう摩周湖が大事。町民の自然を守る意識の高揚が必要。
- ・近くの人はお金を払ってまで行きたいとは思わないと思うので対策が必要。
- ・規制するのなら新しい景勝地も必要。
- ・代替バスのための料金が不安。
- ・もっと若い世代の人たちが参加できるような懇談会の環境づくりが必要。
- ・早朝や夜に写真を撮りたい人、星を見たい人が行けなくなるので、ゲートを設けて入場料を払ってもらい、それを調査費用等に当ててはどうか。
- ・町民の保全意識が向上するような施策が必要。
- ・代替交通機関の具体例を示してほしい。
- ・摩周湖を孫の代くらいまでには世界遺産にしてほしい。
- ・代替交通にシフトすることによって地域の経済がどうなるのか、子供の数にも影響してくる。
- ・アンケートは一般の方は80%程度の賛成となっているが旅行エージェントにも聞いてみる必要がある。
- ・ゴミの焼却場が丸見えなのは問題、次はきちんと配慮してもらいたい。
- ・各種ボスター等による啓発活動の継続も必要。
- ・代替交通にシフトして、町内有名写真家による摩周湖ミュージアムを設置して新駐車場の目玉にしてはどうか。
- ・町内の観光地を摩周湖の規制をきっかけに来訪者の待ち時間を利用して体験観光等に利用してはどうか。
- ・摩周湖を含めた体験型観光の充実を図るべき。
- ・知床の1坪運動のように全国の人に夢を買ってもらえるようなことはできないか。
- ・環境は数字で計れるものではないので、酸性雨や排気ガスに限定した調査では不十分ではないか。
- ・市街地に代替交通機関の発車基地を作り町内活性化を。
- ・このような懇談会をもっと実施してほしい。資料の出所がわからず信用できない。
- ・摩周湖の環境問題は地球規模での環境問題も影響しているので世界的な視点が必要。
- ・第1展望台のアイドリングストップを、売店はあそこに無いほうがよい。
- ・川湯側の代替交通も積極的に考慮すべき。
- ・保全対策と観光客離れは慎重に検討してもらいたい。
- ・経費を度外視すればロープウェイがいい。
- ・守ろうという声かけだけではなく、目標値等を設定して取り組み「摩周湖方式」といわれるくらい全国にアピールする必要があるのではないか。
- ・摩周湖やその周辺を案内するガイドも必要。



慎重意見

- ・摩周湖の環境影響調査は既に大学や自然保護団体が実施しており、知らないのは役場だけである。
- ・いまさら調査する問題ではないし町の提示している案は不備であり賛成できない。
- ・排気ガスで木が枯れるから代替バスという考え方は難しい。
- ・今後、急速にハイブリッドカーなどが普及すると規制するべきでないか。
- ・1年間で20万台の車両とあるが、札幌市の国道は1日合わせて20万台あり周辺の木々は枯れていない。
- ・道道から町道に移管され、ハイブリッドバスが走っても将来に負の遺産を残すだけである。
- ・規制をすれば、自分が行きたい時間や帰りたい時間に合わないことも想定され、自由がなくなると結果行かなくなると思う。
- ・レストハウスの売り上げに影響が出してしまうのは良くない。
- ・摩周湖の木々の立ち枯れは外国の影響が大きいと聞いている。排気ガスではない。
- ・原油も50年もすればなくなると言われており、新しい燃料も開発されるはず、いま慌てる時期ではない。
- ・代替交通にしたらどれだけのお客さんが来るのか心配。
- ・気軽に利用する摩周湖が大切。
- ・立ち枯れの最大要因は笹の繁茂であり、排気ガスではない。
- ・この取り組み自体が町による金儲けなのではないか。



環境保全対策に関する質問と町の考え方

- Q** 町が保全を検討しているエリアはどの範囲なのでしょう？湖単体なのでしょうか、ふもとまでなのでしょうか？また、硫黄山は保全しないのでしょうか？
- A** 今回、町が皆さんにお話ししているのは摩周湖周辺ですが、これは湖も道路も森も含めて摩周湖周辺と考えています。硫黄山や屈斜路湖はもちろん保全をしていかななくてはなりません、まずは摩周湖周辺から第1歩を始めたいと考えています。
- Q** 問題なのは排気ガスだけなのでしょうか？
- A** 環境保全策は、単に排気ガスのみを捉えてお話ししているわけではありません。第1級の景勝地であり国立公園内でもある摩周湖には、その周辺に立ち入るだけで来訪者からの様々な環境プレッシャーを受けると考えています。例えば、代表的なものが来訪車両による排気ガスや地球温暖化物質の排出であったり、ポイ捨てされる大量のゴミや、事故にあつてしまう動物、また保全地内に立ち入ることによる植生への影響などです。
- Q** 交通規制を実施した場合、ハイブリッドバスを走らせるのですか？その場合、個人のハイブリッドカーは規制できないのでしょうか？
- A** 摩周湖環境保全には、交通規制は有用な方策と考えていますが、現時点では規制すべきかどうか、また可能かどうかも含めて関係行政機関と協議中です。規制の考え方は代替交通機関の設置や車両の車種によって進入を制限するもの、来訪人数を制限するもの、完全通行止にするなど色々ありますが、何が摩周湖にとって一番良い方法なのかを皆さんと一緒に検討していきたい考えです。また、代替交通機関の設置を検討する場合、現道を利用できるということではハイブリッドバスが有効ですが、来訪者の方々に乗り換えて頂ける魅力的な交通機関も必要ではとの意見もあり、今後も様々な検討が必要と考えています。現時点で代替交通機関としてハイブリッドバスの運行が決定しているわけではありません。

Q 規制を実施している他地域の状況は調査していますか？
・摩周湖と接する自治体と意見交換は行っていますか？

A 町では全国で実施されている環境保全目的による交通規制の事例24ヶ所の情報を収集し運営形態等を調査しています。その中には道内では知床、大雪山、支笏洞爺など、道外では中部山岳国立公園内の乗鞍や上高地地区なども含まれています。今後では、随時情報収集を行い検証をしながら参考として行きたい考えです。

Q 交通規制を実施したら、観光客が減ってしまいませんか？
・環境保全に反対する人はいないと思うが、規制などは将来に不安を感じますが？

A 環境問題と観光客の入込をどう共有して進めるのですか？
・環境保全に成功したとしても町の観光業は全く変わらないのではないのでしょうか？
・自然を守ることと町の活性化とのウエイトはどうなのですか？

A 交通規制は前述のとおり、現在検討中の環境保全策のひとつです。仮に規制が実施された場合、来訪者の数は減少することはもちろん想定されます。しかし、今まで車であつという間に摩周湖に行つてすぐに降りてきてしまふ他地域へ移動するといった通過型観光での来訪者が減つたとしても、ゆっくり摩周湖を見て頂ける滞在・体験型観光の来訪者に目を向けて、弟子屈町でいかに時間を使つて楽しんでもらえるかを検討すべきではないかと考えています。弟子屈町が真剣に環境保全に取り組むことがそこに住む人達自身のイメージアップにもつながり、その活動の延長に地域の活性があるのだと考えています。これには賛否両論あると思いますので、積極的に意見交換をお願いしたい考えです。

Q 仮に代替交通をハイブリッドバスとした場合、採算は取れるのでしょうか？

A ハイブリッドバスはこの会社が運行するのですか？
・代替交通の料金はどのくらいですか？
・代替交通に投資した額は回収できるのですか？
・新たに駐車場を設置する場合、場所は決定していますか？
・ハイブリッドバスを走らせるのであれば市街地や景勝地を循環させてはどうですか？

A 代替交通機関にハイブリッドバスを設定した場合、バスの購入やステーションの設置費用や場所、また運行業務をどこが実施する

査については、北海道環境科学研究センターに分析を依頼しておりますが、環境保全に対する取り組みのひとつの重要な指標となるものであり長期間の継続監視を続ける必要があると考えています。大気汚染調査以外で町が実施しているものは第1展望台での交通量入込調査ですが、湖自体の測定や調査は国連の環境計画や世界保健機関などが世界的観測ネットワークにより調査を実施しています。実際には国立環境研究所、北海道環境科学研究センター、千葉大学、北見工業大学の研究者の方々が年3回の現地調査を含む分析を行っています。今後、環境保全の指標として必要と思われる調査は随時関係機関と協力しながら進めて行きたい考えです。

また、知床の観測データはかなりの数が存在していますが、調査時期や方法、数値等が摩周湖のデータと直接対比できるものであるかは難しいところもありますので今後、比較検討できる整合性をもったデータがあるのかも含めて調査したいと考えています。

Q 環境保全の方向性が決定されるのはいつ頃ですか？
・代替交通機関の実現はいつ頃を予定していますか？

A 環境保全の施策については、これをやったからここで終わりという考え方は持っていません。環境対策はあくまでも継続的に実施をしていかななくてはならないものであり、環境活動自体も次世代に引き継いでいく財産であると考えています。代替交通の設置や規制の必要性の有無については、現在、国土交通省の「公共交通活性化総合プログラム」においても調査検討が開始されており、来年度中には実証実験も含めた具体的施策の方向性が決定されるものと考えています。

Q 摩周湖周辺を全面禁煙にすることはできませんか？

A これについては、明言するのは難しいですが摩周湖周辺の環境を考えると、摩周湖周辺を全面禁煙にすることはできませんか？

Q 車両規制を行った場合、どれくらい環境に対する効果があるのでしょうか？

A 仮に摩周湖に来訪する車両全てに代替交通機関としてハイブリッドバスへ乗り換えてもらうとした場合、弟子屈町の全家庭が1年間に排出する地球温暖化物質総量の10%以上のCO2を削減することが

のか等の調査検討はしていますが現在のところは未定です。しかし、バス購入費用やステーション、新駐車場の建設費用等は原則、そのエリアに立ち入りをされる来訪者の方々全員に少しずつ負担を頂くことをお願いすべきではないかと考えています。また、当然地元自治体として必要な措置に対する費用は捻出は出来ませんが、全ての費用を自治体や地元の方々の負担において実施することではないと考えています。ハイブリッドバスの設置による概算投資額は把握しておりますが、摩周湖への来訪者数が仮にある程度減少したとしても十分に回収している金額であると考えていますし、町財政に破綻をきたすような負担を行う考えはありません。

また、実際に代替交通機関を設置する場合には弟子屈市街地側及び川湯側からのルート、更には市街地や町内景勝地の循環なども視野に入れて十分検討していく必要があると考えています。

Q 摩周湖の道道を町道に移管してもらうという件はどうなったのでしょうか？

A 現在の道道屈斜路摩周湖畔線を町道に移管してもらうという考えは、摩周湖周辺の一体的保全を検討するにあたり、道路の管理を町に移管してもらうことにより管理運営を一括して行うことができるというメリットを検討する段階で、移管自体が可能かどうかと北海道に確認したものであり、町道移管の要請は行っておりません。移管を受けることによる財源の負担については原則として道路保有による交付税により町民の皆さんに新たな負担を強いということはありませんが、移管を受けることが可能かどうかも含めて現在は総合的に最善の方策を検討中です。もちろん、現在そのまま北海道の管理のもとに来訪車両のコントロールを考えていくという方策も考えられます。

Q 大気汚染調査はいつまで実施するのですか？
・大気汚染調査以外にはどんな調査を実施していますか？
・湖自体の調査は行わないのですか？
・知床の大気汚染データはないのですか？摩周湖と比べてみてはどうでしょうか？

A 現在、大気汚染調査は毎月実施しているサンプラー設置による簡易調査と年1回の48時間継続詳細調査を実施しています。この調

できます。また、省エネルギー効果として来訪車両が摩周湖来訪時に使用するガソリン等の使用量が6分の1に削減できる計算となります。更には排気ガス自体の抑制効果もあり、酸性雨や酸性霧の原因物質となる硝酸の生成も抑えられます。

Q 観光客意識調査についてですが、サンプル数400というのは少なすぎませんか？

A 観光客の動向を調査してはどうですか？
・町民の意識調査は行わないのですか？
A 弟子屈町観光意識調査については、釧路公立大学と共同研究事業として取り組んでいるのですが、速報は夏の繁忙期に実施しているものであり、11月の閑散期にも調査を行い更に詳細な解析を進める予定です。サンプル数については大学とも協議し正確な分析を行うために必要な数字を統計学上から判断しているものでありますが、サンプル数は多いほうがより良いとの考えはその通りですので更にサンプル数が増えるよう取り進めたいと考えています。観光客の動向についてはこの調査で聞き取りをしていますので後日大学から解析後発表される予定です。また町民意識調査については実施する方向で検討しておりますが時期等については未定です。

Q 裏摩周展望台での交通量調査は実施していますか？

A 調査を実施しており、実数の把握はしています。裏摩周展望台には乗用車13台分と大型バス2台分、オートバイ10数台分の駐車場がありますが、規模や交通量から見ると問題となるような交通状態が発生するとは考えにくい状況です。

Q 町長が変わってしまったら、この対策も立ち消えになってしまふのではないですか？

A 環境保全策はもろもろ町長の「弟子屈町の環境を守り次世代に伝えて行きたい」との強い考えのもとに取り組みが開始されているものでありますが、環境保全の取り組みについては長期的な考え方のもとに実施しなくてはならず、摩周湖を取り巻く関係行政機関や各研究機関とも長期継続的調査検討を約束してご協力を頂いておりますので、ご指摘のようなことがあっても弟子屈町としてのスタンスや本質は変わるものではないと考えています。